

発行者 加藤 和彦
仙台市青葉区愛子東六丁目7-45
TEL.022-392-2213 FAX.022-392-6176
http://k-kazuhiko.com/

「道の駅」を国と自治体と地域が
一体となって設置し将来の街づくりを取り組む
宮城総合支所管内の新都心構想は
きわめて重要な要素を集約している

平成27年第1回定例会代表質問
様々な視点から考える、
宮城総合支所管内の
新都心構想について

愛子中心部に「道の駅」を設け
地域発展の起爆剤にする

産業育成の立場から
総合支所管内の新都心の振興力を考える

TOPIC ◎落合東町内会集会所建設に係る要望書を総合支所に提出しました!
◎ソーシャル・イノベーション創生特区(仙台市版地方創生特区)の概要
◎総合支所管内の課題 ◎落合三丁目地区道路整備計画 ◎平成27年度 施工箇所一覧表

TOPIC

平成27年度 施工箇所一覧表

※平成27年4月1日現在で契約中及び発注予定の工事

平成27年4月1日 宮城総合支所道路課

No.	工事件名	施工場所	金額 (千円)	工期	工事概要			
					工種	延長(m)	幅員(m)	設計概要
1	(市)愛子赤坂線(愛子工区)歩道整備工事	青葉区愛子中央一丁目内外	35,367	H26.12.9~H27.6.30	道路改良	216	12.0	舗装工、側溝工
2	(市)青野木鳴合線(新鳴合橋)道路改良工事	青葉区上愛子字松原~字沢字新田地内	150,852	H26.12.26~H27.11.30	道路改良	495	10.0	盛土工、舗装工、側溝工
3	(市)郷六青葉山線側溝整備工事	青葉区郷六字郷六山地内	23,122	H26.12.9~H27.6.30	側溝整備	510	-	側溝工、舗装工
4	(市)青野木鳴合線(新鳴合橋)道路改良工事(その2)	青葉区芋沢字新田地内	-	6月発注予定	道路改良	500	10.0	舗装工、擁壁工、防護柵工
5	(市)高畑定義線(高畑工区)道路改良工事	青葉区大倉字高畑地内	-	年度内(詳細設計完了後)	道路改良	設計中	設計中	盛土工、舗装工、側溝工
6	(市)愛子赤坂線歩道整備工事(その2)	青葉区愛子中央二丁目地内	-	6月発注予定	道路改良	110	12.0	舗装工
7	(市)愛子1号線道路整備工事(その2)	青葉区愛子東四丁目地内	-	6月発注予定	道路改良	150	10.0	舗装工、側溝工
8	(市)赤坂明神線(宿工区)道路改良付帯工事	青葉区芋沢字宿地内	-	6月発注予定	道路改良	200	-	河川護岸工、仮設道路撤去
9	(市)郷六青葉山線側溝整備工事(その2)	青葉区郷六字郷六地内	-	5月発注予定	側溝整備	300	-	側溝工、舗装工
10	(市)小坂横前線道路改良工事	青葉区芋沢字横前地内	-	4月発注予定	道路改良	70	10.5	舗装工、側溝工
11	(市)愛子栗生線道路改良工事	青葉区下愛子字稲荷前地内	-	5月発注予定	道路改良	60	6.5	盛土工、側溝工、舗装工
12	(市)網木半子町線側溝整備工事	青葉区芋沢字網木坂地内	-	7月発注予定	側溝整備	130	6.5	側溝工、舗装工
13	(市)大竹南高野原線側溝整備工事	青葉区芋沢字下原地内	-	9月発注予定	側溝整備	80	-	側溝工、舗装工
14	23国災第6024号(市)新川ハイランド線道路災害復旧工事	青葉区新川字佐手山地内	-	4月発注予定	災害復旧	77	-	土工、抑止杭工
15	23国災第6008号(市)中原鳴合線道路災害復旧工事	青葉区芋沢字新田地内	-	4月発注予定	災害復旧	33	-	法面工、舗装工
16	(市)新川ハイランド線(セイコウ大橋)橋梁補修工事	青葉区新川字佐手山地内	10,800	H26.12.6~H27.6.30	橋梁補修	65	8.8	支取取替工、横桁補強工
17	(国)457号外2線舗装改良工事	青葉区落合2丁目地内外	29,141	H26.12.8~H27.6.30	舗装改修	815	3.3~9.7	舗装工
18	(市)高畑定義線道路防災工事	青葉区大倉字高畑地内	-	7月発注予定	道路改修	60	4.5	擁壁工、管渠工
19	(市)滝の瀬支線1号線道路改修工事	青葉区落合3丁目地内	-	8月発注予定	道路改修	250	5.4	側溝工、舗装工
20	(国)457号(愛子東工区)歩道改修工事	青葉区愛子東1丁目地内	-	8月発注予定	道路改修	350	0.7	側溝工、舗装工
21	(国)457号道路改修工事	青葉区上愛子字折葉地内	-	10月発注予定	道路改修	650	2.1	歩車道境界ブロック
22	(市)十里平線(十開橋)橋梁補修工事	青葉区大倉字横川岳地内	-	6月発注予定	橋梁補修	15	5.3	下部工補修工、橋面補修工、地盤補修工
23	(主)仙台北環状線舗装改修工事	青葉区郷六字葛岡地内	-	10月発注予定	舗装改修	340	7.5	舗装工
24	(市)みやぎ台支線11号線舗装補修工事	青葉区みやぎ台5丁目地内	-	11月発注予定	舗装改修	450	6.2	舗装工
25	(国)457号舗装改修工事	青葉区芋沢字鍛冶屋前地区	-	9月発注予定	舗装改修	340	7.5	舗装工
26	(一)秋保温泉愛子線舗装改良工事	青葉区錦ヶ丘1丁目地内	-	5月発注予定	舗装改修	580	7.0	舗装工
27	(一)泉ヶ岳熊ヶ根(大原工区)線舗装改修工事	青葉区大倉字大原地内	-	9月発注予定	舗装改修	350	6.5	舗装工
28	(市)赤坂明神線舗装改修工事	青葉区芋沢字横前地内	-	7月発注予定	舗装改修	280	7.3	舗装工
29	明神夜盗沢線舗装改修工事	青葉区芋沢字横手地内	-	6月発注予定	舗装改修	280	7.0	舗装工
30	(一)泉ヶ岳熊ヶ根線(菅谷工区)舗装改修工事	青葉区大倉字菅谷地内	-	9月発注予定	舗装改修	430	6.5	舗装工
31	(市)葛岡墓園入口線舗装改修工事	青葉区郷六字石山地内	-	11月発注予定	舗装改修	130	7.1	舗装工
32	(市)網木半子町線舗装改修工事	青葉区南吉成2丁目地内	-	11月発注予定	舗装改修	70	6.1	舗装工

のお考えをお伺いします。

— A ↓ 経済局長 —

若者の雇用の確保に係るお尋ねでございます。

人口減少が進む中、雇用の場の確保は重要な課題であり、これまでも地元企業で働くことの魅力の発信や、若手職員の定着促進に向けた働きやすい職場づくりへの支援などに取り組んでまいりました。

今回提案いたしております中小企業活性化条例にもおきまして、事業者ニーズに基づき、女性や青年などの多様な人材の確保、育成、定着を重要施策として掲げたところであり、今後、首都圏からのUターン促進に向けた就職説明会を実施するほか、起業の促進など多様な働き方の創造や、戦略的な企業誘致などを総合的に展開する中で、若者にとって魅力ある雇用の場の創出に努めてまいりたいと存じます。

— Q ↓ 加藤和彦議員 —

災害に強い強固な岩盤と被害を受け入れの余裕

市内のハザードマップが発表され、宮城地区でも山地の崩落が懸念される地域が示されましたが、平地にはその危難から救護できる十分な安全地域があります。そして市の中心部からの避難を受け入れるだけの余裕があります。それは、地盤の良さが今回の大震災で明らかになったからで

— Q ↓ 加藤和彦議員 —

市では副都心として北の泉中央、南の長町を指定し、それぞれに都市機能を集約して発展させてきました。東部の仙台港を中心とした地域については港湾施設、火力発電所、夢メッセみやぎ、水族館の建設などで活性化を進めています。西部の旧宮城地区の中心部についての機能充実については、「商業・業務機能等の整備や人口増加を踏まえ、良好な住環境を有する地域として街づくりを推進」を基本方向として捉え、それほどの振興策もないし、市中心部のベッドタウン住宅地としか見ていません。

そもそも東北インテリジェント・コスモス構想では、仙台市内の4つの拠点の中に愛子副都心が位置づけられ、創造的な研究開発や、頭脳型・文化型ベンチャー企業育成の拠点として捉え、それほどの振興策もないし、市中心部のベッドタウン住宅地としか見ていません。

市ではこのような地域を活かした計画は持っているのでしょうか、お伺いします。

— A ↓ 危機管理監 —

宮城地区の防災上の位置づけについてでございます。

宮城地区は、被災地外からの応援や緊急物資輸送のための緊急交通路として指定されている国道48号と仙台西道路により市中心部とつながっており、東北自動車道仙台宮城インターからも近く、交通の利便性の高い地域でございます。

こうしたことから、地域防災計画におきましては、市外からの応援部隊の進出拠点や緊急輸送のためのヘリコプターの臨時離着陸場候補地を多く設けており、大規模災害時における応援や物資輸送など、災害応急活動の結節点として位置づけているところでございます。

— Q ↓ 加藤和彦議員 —

里山巡りと子供が遊べる所

愛子中心部からほど近くに仙台市天文台があり、景勝地サイカチ沼を控えていて、五郎八姫の西館・伊達家の郷六御殿、大梅寺へのルート最上古街道を、健康・歴史ブームに乗

て開発するとしています。整備予定の新規施設としてソフト開発研究所、新素材開発協同研究所、新産業創成国際センター、頭脳型・文化型ベンチャー企業インキュベーター支援施設、高等教育機関、民間研究所の設置を予定し、愛子副都心に大きな期待を寄せています。市ではこれには一顧もしていないのではないのでしょうか。

市が都市個性を生かした活力づくり、若い世代の方々にとっての魅力を知っている私たち住民にとっては、市の政策では将来への夢も希望もない将来像ではないでしょうか、当局のお考えをお伺いします。

— A ↓ 仙台市長 —

愛子地区の将来へ向けてのまちづくりに関するお尋ねでございます。

JR愛子駅と宮城総合支所を中核とするこの地区は、人口の増加が続くのみならず、2010年の国勢調査では、14歳までの若年人口の割合が15.9%と、全市平均の

り里山を歩いて楽しい景観、心地良い音と多くの人々が訪れています。散策路が充実すれば蕃山を起点として里山巡りができる地域であります。また国道48号の側には遊園地にふさわしい地域があり、のびのびと遊びながら育つ子供が多数いることは将来の人材育成に大きく役立つと考えられます。市民の憩いの場であり子育てに潤いを持たせるこの地域の特性を引き出す計画はお持ちでしょうか、お伺いします。

— A ↓ 青葉区長 —

地域特性を引き出す取り組みについてお答えいたします。

愛子周辺は、蕃山などの里山や齋勝沼をはじめとする豊かな自然に恵まれる一方、商業・文教等の都市機能が一定程度集積された地区であります。

子育て世代も多く、子供たちがのびのびと健やかに育つ環境の充実が望まれております。

新しい小学校や児童館ができ、この春には保育園の開設も予定されているほか、齋勝沼の散策路の整備計画、地域住民による自主的な子育て支援の動きも始まっております。

こうした新たな資源の活用や団体活動への支援など、地域特性を活かし、住民が憩い、かつ潤いを持って生活していけるような環境づくりに向け、関係部局と連携して推進してまいりたいと存じます。

— Q ↓ 加藤和彦議員 —

宮城総合支所の発展的役割として、宮城総合支所の発展的役割として、仙台山交流の起点があります。山形市と隣接している仙台市の出窓のような存在で、山形県内の産物や催し物の紹介がしやすく、仙台市からの情報も手近に発信できる気安さがあります。スポーツ交流などで親近感が高まってきているが、本格交流はむしろ買い物や通学での人の出入りであります。夜中まで県都間を走っている鉄道は東北ではこしかないです。

— Q ↓ 加藤和彦議員 —

宮城総合支所にかかるご質問にお答えいたします。

本市と山形市は、多くの方々が観光やレジャー、買い物などに相互に行き来するなど、身近な関係にございます。

宮城地区は、本市中心部と山形との中間に位置し都市間を結ぶ交通基盤も充実しておりますほか、関山街道フォーラムなど地元市民団体による仙山交流促進の動きが活発化しているところでございます。

様々な視点から考える、宮城総合支所管内の新都心構想について

定例会 1 代表質問

総合支所管内の新都心構想はきわめて重要な要素を集約している



錦ヶ丘小学校開校式

— Q ↓ 加藤和彦議員 —

市では副都心として北の泉中央、南の長町を指定し、それぞれに都市機能を集約して発展させてきました。東部の仙台港を中心とした地域については港湾施設、火力発電所、夢メッセみやぎ、水族館の建設などで活性化を進めています。西部の旧宮城地区の中心部についての機能充実については、「商業・業務機能等の整備や人口増加を踏まえ、良好な住環境を有する地域として街づくりを推進」を基本方向として捉え、それほどの振興策もないし、市中心部のベッドタウン住宅地としか見ていません。

そもそも東北インテリジェント・コスモス構想では、仙台市内の4つの拠点の中に愛子副都心が位置づけられ、創造的な研究開発や、頭脳型・文化型ベンチャー企業育成の拠点として捉え、それほどの振興策もないし、市中心部のベッドタウン住宅地としか見ていません。

— Q ↓ 加藤和彦議員 —

愛子地区は交通の要衝

市内最後の発展地は愛子地区から落合・栗生間しかありません。

しかも仙山線・市バス・愛子観光バスがあり、東北高速道路仙台宮城インターチェンジが目の前で、国道48号で市内中心部とつながっており、交通の面での重要さが際立っています。

— A ↓ 仙台市長 —

愛子地区の将来へ向けてのまちづくりに関するお尋ねでございます。

JR愛子駅と宮城総合支所を中核とするこの地区は、人口の増加が続くのみならず、2010年の国勢調査では、14歳までの若年人口の割合が15.9%と、全市平均の

— Q ↓ 加藤和彦議員 —

人口急増で小中学校に変化

人口増加で悲鳴を上げているのが愛子小学校、27年度から錦ヶ丘小学校の新設でやっとプレハブ校舎と別れますが、広瀬中学校の巨大化は変わりありません。市内で、人口増加で悩んでいるのはここだけあります。人口減少で将来の消滅が危惧されている地域が多いのに、なぜ住民が増えるのか、それは住み良いと人気があるからです。それに大事なことは若年女性の人口が増加していることです。

ここで育った若者が東京へと流れて行かずに市内に職を求めて生活できるように、雇用の確保へ力を入れているか、その計画等について、当局

て開発するとしています。整備予定の新規施設としてソフト開発研究所、新素材開発協同研究所、新産業創成国際センター、頭脳型・文化型ベンチャー企業インキュベーター支援施設、高等教育機関、民間研究所の設置を予定し、愛子副都心に大きな期待を寄せています。市ではこれには一顧もしていないのではないのでしょうか。

市が都市個性を生かした活力づくり、若い世代の方々にとっての魅力を知っている私たち住民にとっては、市の政策では将来への夢も希望もない将来像ではないでしょうか、当局のお考えをお伺いします。

13.1%を大きく上回り、また、近年は、商業・業務機能の集積が進み、市域全体の中でも、若い活力にあふれた地域となっております。

その背景には、JR仙山線と仙台西道路による通勤・通学上の利便性と豊かな自然環境が同居する点にあると考えており、こうした得難い地域特性やポテンシャルを将来のこの地域の発展に向けて生かしていくことが重要であると認識をしております。

今後に向けましては、地域の皆さまとともに将来のビジョンを描いていくことが大切であり、さまざまな機会を捉えてお話を伺いしながら、愛子地区のさらなる発展を目指してまいりたいと考えております。

最新線の行政機関としてのこれまでの役割に加え、住民の方々が幸せを実感できる地域づくりなど宮城地区の発展に向け、積極的に取り組んでまいります。

Q 加藤和彦議員 西部に開発に快適な地

現在は愛子地区の発展がめざましいが、上愛子地区には新しい都市開発が待っています。市内東部の市街化区域では今回の大震災で宅地利用を放棄する所が多数出て、その面積をここに回せば市街化区域の回復と地域の発展につながります。創造的な研究開発や頭脳型・文化型ベンチャー企業育成の拠点として開発するのに最適な地域であります。国道48号バイパスの延長も噂される中、むしろ住民の方からその場合はここを通してほしいと国土交通省に情報提供したらどうか。そうすれば地域の発展にも計画を立てて臨めると考えられます。

社会の動きは急速に地域の使命を変えつつある。これに行政はどのように対応しようとしているのか、お伺いします。

A 都市整備局長 上愛子地区の都市開発について

道の駅に対する考え方でございますが、日本各地に設置されてきた道の駅は、休憩機能や情報発信機能と合わせて、地域の連携機能といった複合的な役割を担う施設として整備が進められてまいりました。また近年では、福祉や防災機能等、地域特性に応じた新たなニーズへの対応も求められております。

これまでの実績におきましては、地域住民や農業関係者、観光業界の方々等多様な主体と市町村が一体となって、地域の活性化が図られた成功事例も多数存在しているとお認識しております。

道の駅の設置につきましては、長距離移動の中継地として、快適な休憩場所に相応しい箇所を選定することは勿論、周辺の商業施設への影響などにも配慮する必要があるものと考えております。

一方、道の駅が整備され、多くの方々に利用されることとなれば、道路利用者の利便性の向上はもとより、その波及効果も大きいものと捉えているところでございます。実現に向けましては、まずは地域の方々の、設置に関する熱意の高まりと、さらにはそれを継続する力が何よりも重要でありますこと、本市といたしましては、その様な気運の広がり

てのお尋ねでございます。

都市計画マスタープランでは、JR愛子駅を中心とする市街地を鉄道沿線区域と位置付け、暮らしに必要な都市機能の充実を図ることとしており、これまで、駅前広場の整備や、宮城総合支所周辺で日常生活に必要な商業施設の立地誘導等を進めてまいりました。

また、国道48号についても、沿道自治体と共に、愛子バイパス以西の延伸整備等を国土交通省に要望しているところでございます。

今後とも、社会情勢の変化等を的確に捉えながら、区や他部署とも連携し、地域の方々と共に、地域特性を踏まえたまちづくりを進めてまいります。



道の駅イメージ

2 代表質問 「道の駅」を国と自治体と地域が一体となって設置し将来の街づくりに取り組む

「道の駅」を国と自治体と地域が一体となって設置し将来の街づくりに取り組む

Q 加藤和彦議員

市には道の駅の発想がないが、魅力ある地域を創生するには立地条件の把握と資源・資産の保有状況の分析を客観的に行って、将来の人口減少社会への備えをしなければなりません。元気な地域を起すには、人の集積を得る方法とその地で決めなければならぬ。しかし、その多様な情報やデータを活かすには行政の支援が必要であります。宮城地区新都市の振興には道の駅の効果に期待する所が大きいです。

道の駅の意味

道の駅の目的は大きく言って道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供と地域振興に役立てるためにあります。

道の駅の機能

その機能は高速道路のパーキングエリアに近い。24時間、無料で利用できる駐車場・トイレなどの休憩機能、道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報の提供などの情報発信機能、文化共用施設、観光リクリエーション施設などの地域振興施設などの地域連携機能の3点が挙げられます。その機能が溶け合っ

道の駅の経営の型

道の駅は平成25年4月現在、全国で1004駅あり、道路管理者と市町村が共同で整備する

型と市町村等が単独で整備する型とあります。

道の駅の効果

道の駅の効果は次の3項目に分類できます。

1 安全で快適な道路交通環境の提供

・ 休憩場所の提供

・ ドライブに必要な道路情報の提供

2 地域振興への寄与

・ 観光拡大効果 観光拠点の提供

・ スタンプラリー等のイベント実施

・ 地域の特産品等の紹介・販売

・ 地域の雇用・就業拡大効果

・ 農産品等の出荷販売場所、レストラン等での雇用の場

・ 地域コミュニティの拡大効果

・ 地域の交流の場、産品等の生産者間の交流の場

3 防災拠点機能

・ 自衛隊等の災害対策拠点

・ 救護物資の中継場所

・ 緊急避難場所としての利用

・ 緊急輸送路、災害情報の情報提供

・ 国道48号に道の駅を設置したら、以上の効果は目を見張るほど上がることを見逃してはなりません。

これで道の駅に対する市の見方が考え方が変わってくると考えますが、当局のお考えをお伺いします。

A 建設局長

道の駅に対する考え方について

道の駅に関するご質問にお答えいたします。

それと宮城県内の推奨品を並べればそれでよいと思えます。

地域の発展を考えれば、次第に人口が密集してしまう前に道の駅を設置しないと、広い敷地を確保できなくなる恐れがあります。だから悠長に構えていては夢物語になってしまふ。愛子地区は間違いなく市街化します。だから市の計画に早く乗せてほしいと一日千秋の思いで期待しています。

車社会から見た愛子の道の駅は、早急に設置計画を立て実現しなければならぬと考えるが、当局のお考えをお伺いします。

A 経済局長

産業の紹介を兼ねた観光コースのご提案に係るお尋ねでございます。

宮城地区はウイスキー工場や伝統工芸の工房など産業観光の資源はもとより、作並温泉や定義などの観光資源も充実しております、これらを組み合わせた観光コースの開発など地域振興の視点も踏まえながら取り組んでまいりました。

研究所や工場につきましては、見学ルートの設定などの課題がございますが、この地域の持つ多様な魅力の連携と発信に努めながら、地域の皆様とともに同地区の観光振興に向けまして、検討を深めてまいります。

3 代表質問

愛子中心部に「道の駅」を設け 地域発展の起爆剤にする

Q 加藤和彦議員 宮城地区新都心構想の実現に当たって、どこから何から手を付けたらよいか選択の時期に来ていると考えられます。それは市のポスト復興を見据える地域経済の活性化を目指した計画立案に取り入れて具体化しようとするものであります。確かに市中心部はこのままでは活性化は難しい。地下鉄東西線運行開始と連動して新しい都市開発を進めようというの当然であります。他方を転じてみれば仙台に「道の駅」はない。地方の主要道沿いには市町村当たり1ヶ所は「道の駅」があり、地域の特色を反映した地域密着型施設となつて繁栄している所が数多くあります。それぞれ立地条件があつて巧みにそれを活かした結果であります。東北地方には約144の道の駅があり、宮城県で全国でも有名なのは石巻市の上品の郷、大崎市のあ・ら伊達な道の駅があり、地域に生きがいと活力をもたらしています。道の駅は逆に地域づくりに貢献するので、多くの自治体は道の駅に力を入れて地域振興を図っているように思えます。

車社会だから

愛子の道の駅は効用が目立つ

日本は車社会であることは揺るぎない事実であります。自家用車を持たない家庭は少数であります。

どこへ行くにも用足しに行くのも車である。だから、遠方より訪ねてくる方の中には行けば情報を得られるという期待を持たれる方が大勢います。高速道路を下りて愛子に道の駅があることを知っていたら、そこで休憩しながら食事したり各種の情報を求めたり、産物を購入したりすると、良かったと喜ぶ顔が見えるような気がします。秋保温泉の帰りに道の駅でコーヒーを飲んで一息ついて家に帰るといふのもあると思われれます。愛子駅で降りてハイキングしたり、見物したりして帰りに道の駅で休憩するとさまざまな物を見たりお土産を買ったりして、思い出づくりができます。現在の社会では子供の遊べる場所がきわめて限られ、かわいそうな気がします。道の駅でゆっくり遊んでいる間に親たちの会話が弾むような安全な場所が提供できます。何よりも仙山交流の場を提供できます。山形県の農産物を販売すればわざわざ混み合う道路で疲れるよりも道の駅で用が足せるほど快適なことがありましようか。愛子周辺の特産品がなくて自負しているのに浜の物を取り寄せるのもどうかと思われれます。山形県は6次産業も盛んだから周年販売できる物産が沢山ある。

TOPIC

ソーシャル・イノベーション創生特区
(仙台市版地方創生特区)の概要

- ◎被災地を含む東北地方は少子高齢化が進むなど課題先進地域であるが、仙台市では震災以降こうした課題を解決するべく「ソーシャル・イノベーション」(社会変革)を志す起業家が急増している。特に、女性は社会的課題の解決を企業動機とする傾向が強い。
- ◎東北大学で産学連携の下、自動走行等の近未来技術において最先端の研究を行っている。
- ◎こうした仙台市の強みを規制改革などを通じて後押しすることにより、社会的課題の解決や雇用の創出等の観点から、新たな経済成長モデルを構築する。

〈具体的な取り組み〉

地方創生特区の規制改革メニューの活用

本市が提案したメニューの活用

- ・NPO法人の設立手続きの迅速化(※)
- ・企業ワンストップ支援センターの設置
- ・公証人の公証役場が外における定款認証(※)

ソーシャル・イノベーション創生に

特に資すると考えられるメニューの活用

- ・エリアマネジメントの民間開放
- ・雇用労働相談センターの設置
- ・地域限定保育士試験の実施(※)
- ・都市公園内への保育所設置(※)

※・・・国家戦略特区法改正法案の成立が必要

規制改革メニューへの追加を継続して要望

会社設立の促進

- ・市長を代表とする協議会において用途変更に関わるワンストップ審査の実施
- ・公証役場の管轄制の見直し、定款認証手数料の無料化
- ・民間企業によるバイ・ベンチャーの促進

女性の社会参加の促進

- ・上場企業による男女別育児休業取得率公表の義務付け等
- ・育児休業を複数回取得する要件の緩和
- ・育児休業取得者の対象拡大

近未来技術実証の積極受け入れ

東北大学未来科学技術共同センターによる以下のプロジェクトについて、規制改革等を通じて積極的に支援することにより新たなイノベーションを喚起

- ・自動走行機能を有する電気自動車実証実験
- ・インフラ点検開始・災害対応等に活用される飛行ロボット実証実験

落合東町内会集会所建設に係る要望書を
総合支所に提出しました!

近年、落合地区の人口が増加する中で、当町内会も会員数が増加し、日常の会合等にも場所の確保が不可欠であり、確保できないことによる活動の停滞も懸念されるところです。また当町内会は高齢化率が他町内会より高い状況で推移しており、高齢者の方々への対応として、身近な集会所等における集いの場を提供することで、高齢者の引きこもりなど多少でも減らしていくことができるのではないか、と考えるところです。

当町内会の集会所建設の実現に向け、要望書を提出しました。



定例会

4

代表質問

産業育成の立場から
総合支所管内の新都心の振興力を考える

— Q ↓ 加藤和彦議員 —

現在は市では市街化区域の拡張を考えていないようだが、愛子地区に限って言えばそれは時代の要請に逆らっていると思われる。

東部では失った市街地を西部に移すのに何も不都合はないはずであり、それを拒否してれば市街地は減少するだけである。もっとも人口減少社会を迎えるにはそのような遠謀深慮も必要であり、住民は必ずしもそれを望んでいるとは考えられません。将来は上愛子地区全体が市街化区域になると予想していません。それは国道バイパスの延長に伴ってその要請が激しくなることは疑いありません。

工業地域の拡大の必要

上愛子地区にはとても静かで自然に囲まれた落ち着いた地域があり、研究機関や開発機関の設置には打って付けであります。東北大学にも近く、産学の連携による新製品の開発が期待できます。小さいけれども工業地域があり優秀な工場が定着しています。これは、宮城町時代からの努力が結実しています。今後創造的な研究開発や頭脳型・文化型ベンチャー企業育成による新製品の生産に必要なならば研究機関を含めた工業地域の拡大は必至と考えます。

この地域の紹介を兼ねた観光コースの設定も一つの地域振興策ではないかと考え、提案します。

— A ↓ 市民局長 —

それは工業地域を入れた宮城地区の施設めぐりの構想が考えられます。愛子駅を発着地として工業地域の各工場を見学し、作業食・入浴を伴った温泉で、次いで定義山参詣、最後に愛子道の駅に寄って愛子駅到着となるコースなどを考える。もっとも各施設の協力を得なければならぬが、地域振興のためと説明したい。

このような発想はお持ちではないと思いますが、着想についてのご意見をお伺いします。

スポーツ産業の振興

スポーツ産業の立地については宮城県総合運動公園の例を見るまでもなく、広いだけではダメで交通の便がどれほど大事か、行った方ならよく分かっていただけだと思います。

車社会だから道路があればよいというのは暴論で、高速道路のインターチェンジが近く国道48号バイパスで容易に到着できます。そして市の中心部に近いなど、地の利を考えた立地こそが大事であります。大きな大会では集団なバスで、個人なら自家用車で、そして様々な用具はトラックで集まるのが常識です。

特産品販売所付き休憩所や駐車場が傍らにあり、温泉付きの宿泊所が近く、観光地巡りにも適しているとなれば、誰でも魅力を感じます。これからのスポーツ施設はこのような魅力と全国大会や国際大会に使用できる大規模な施設が求められます。

現状では埼玉から飛んで北海道に会場が決まり、東北は素通りではないでしょうか。便利で大規模という条件を満たす施設を持たなければ、仙台は大会のチャンスを失い続けるのではないのでしょうか。

荒川・羽生の両世界チャンピオンを輩出しながら後続の子供たちを鍛えるスケートリンク、そして全国・国際大会を開催できる会場を持たないことは極めて残念であります。また同規模のアリーナ型の施設は絶対必要である。多種多様な催しに使えば、その頻度に応じて集まる人数も多くなり、経済効果は計り知れません。将来人口減少を予測される中で、こうした賑やかに人が集まるならば、仙台市は生き残れる都市となることは明らかであります。

宮城町時代から使用してきた広瀬体育館などは、老朽化が進み、すでに使命を終わる時期にきています。だから従来の場所を離れて新しい発想で考えれば、将来のアリーナ型の実現が待たれます。それを目指して宮城地区新都心構想を実現したいと思えます。

市でも国際会議や国際スポーツ大会への誘致意欲を十分示している中で、力強い未来を拓く愛子地区への施設建設に依存はないと思えますが、当局のお考えをお伺いします。

— A ↓ 市民局長 —

スポーツ産業の振興についての質問にお答えします。

国際大会や全国大会などの開催にあたっては、施設の立地が重要な要件であると認識しており、本市におきましても、仙台市体育館を中心にこれまでも数多くの大規模大会を開催してきたところです。また、大規模大会の開催は、国内外から多くの集客が見込めることから、経済効果をはじめ様々な効果が期待できるものと考えております。

スポーツ施設のあり方につきましては、仙台市スポーツ推進計画の中で、仙台都市圏としての広域的な配置、利用者数や都市環境などを考慮し、施設の必要性等も含め、長期的な視点から研究することとしておりますが、震災後の状況変化なども勘案しながら、市民のニーズ、他都市の整備状況等も踏まえ、検討してまいりたいと存じます。



総合支所管内の課題

現状

- ◎宮城総合支所管内人口(平成26年12月末)
平成元年34,122人、平成10年53,952人、平成26年71,770人と大幅に増加
- ◎15歳以下の若年人口の割合も、平成26年で16.7%(全国平均13.1%)と高い
- ◎西部山岳陵地区の人口は、平成元年3,862人、平成10年3,805人、平成26年2,810人と減少し、65歳以上の高齢化率も53%と高い
こうした現状を踏まえ、更に宮城地区が発展していくために、以下課題を示す。

1.宮城総合支所の機能強化

- ・宮城総合支所は地区の拠点として重要
- ・道路や公園の建設関連、町内会支援などの業務はほとんど区役所と同等に機能しているが、福祉関係については生活保護のように窓口すら無いものや、窓口があっても体制が不十分で相談などに適切に対応できない業務が多い
- ・人口7万人を対象とする支所の体制整備、機能強化が必要

2.宮城総合支所圏域の主な施策

- ・吉成、郷六、折立丘陵の経年化、地域のコミュニティの形成、道路・公園の適正な維持
 - ・鉄道へのバスの結節を進め、公共交通の利便性を図る
 - ・防災・防犯の安心・安全の確保、高齢者への在宅支援を図る
- 落合・栗生・愛子・錦ヶ丘等の周辺地域**
- ・当地域の人口増加を踏まえたコミュニティづくり、若い世代が安心して子育てできる環境整備を図る
 - ・交通の利点を生かした良好な住環境づくり、仙山線の複線化、新駅設置、愛子バイパスの熊ヶ根への延長。秋保・愛子・泉の外外線の整備促進を図る

西部山丘陵地域

- ・作並・奥新川の観光資源、定義如来の歴史的資源は仙台の貴重な魅力。観光交流の場の振興を図る

3.未来型教育の開発と人材育成

- ・高齢少子化時代には一人一人の子供が将来の日本を背負って立つ人材として育つ必要
- ・義務教育から自分を拓き強く生き抜く力を持つ児童生徒の育成を貫く

思いやりのある児童生徒(豊かな心)

- ・あらゆる場で豊かな心と、ともに高め合う実践と発表により自信と実力の育成
- ・体験活動・交流活動を通して「思いやりの気持ちを持ち、温かい心で考え行動できる児童生徒」が子供社会の常識へと進化
- ・学校と家庭の子育て意識の共有と指導の共通実践(家庭と学校の信頼関係の熟成による密接な連携と対話、実践発表会)

つながりのある学校づくり(家庭・地域社会との連携)

- ・地域の人材等の積極的な活用と、地域から学ぶ教育活動の推進(学校では得がたい新鮮な学習の場づくり、活用・探求の学習の重視)
- ・学校・地域社会での活動を積み重ね発表を兼ねて地域行事への積極的な参加・協力
- ・自分づくり(自分への目覚め)教育の推進

4.震災復興、防災対策

- ・広大な地域に集落が散在していることから、大雨、豪雪や土砂災害危険時における円滑な情報提供や避難のあり方の検討
- ・防災拠点機能及び自衛隊等の災害対策拠点
- ・救援物資の中継場所の設置
- ・緊急避難場所としての拠点づくり
- ・除雪対象路線のアンバランス是正の必要

5.地域医療

- ・大規模な病院がないことから誘致をし、地域医療体制を充実
- ・西部地区は医療機関が少ないので通院手段の確保が必要

6.経済関係

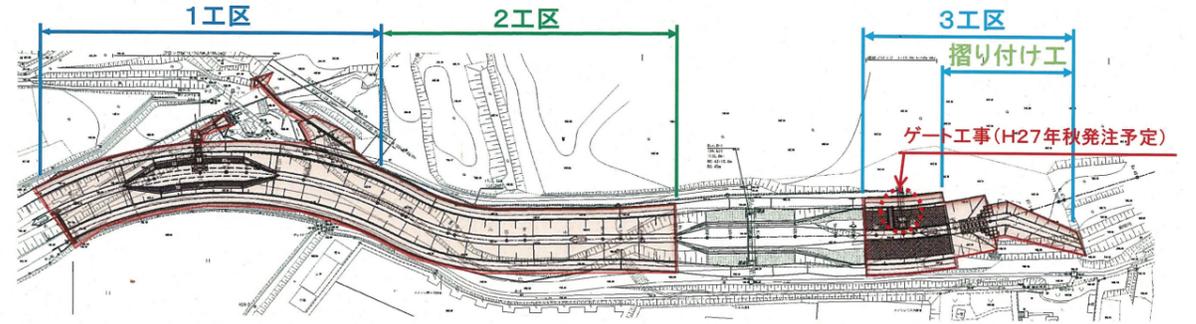
- ・世界一を誇る半導体試験装置研究所、ウエスキー世界最高位受賞のニッカ仙台工場、除染に活用されている仙台産ゼオライト、上愛子地区の工業地域の拡大の必要
- ・スポーツ産業の振興
- ・定義～作並の回遊ルートの開設
- ・クマ、イノシシ、サル対策の推進
- ・耕作放棄地の利活用推進
- ・道の駅の設置
- ・観光拡大効果 観光拠点の提供、スタンプラリー等のイベント実施、地域の特産品等の紹介・販売
- ・地域の雇用・就業拡大効果 農産品等の出荷販売場所、レストラン等での雇用の場
- ・地域コミュニティの拡大効果 地域の交流の場、産品等の生産者間の交流の場

7.まちづくり

- ・宮城総合支所周辺を中心とする市街地の整備
- ・愛子駅前地区の開発促進
- ・仙山交流の起点づくり
- ・下愛子地区、上町南町内会地区、二岩地区の町名変更の整備
- ・宮城総合支所管内を巡回するループルバスの配置

準用河川掘切川改修工事12(H25補正予算)

- ◎契約月日:平成26年10月21日
- ◎契約工期:平成26年10月22日～平成27年7月30日 ※工期延期予定
- ◎請負業者:金福建設株式会社



→至愛子

計画工程表

工事名	工区別	H26			H27												
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
準用河川掘切川改修工事1	全工区	[Orange bar spanning from Oct H26 to Sep H27]															
	1工区					[Blue bar spanning from Feb H27 to Apr H27]											
	2工区									[Green bar spanning from Jun H27 to Aug H27]							
	3工区			[Light blue bar spanning from Oct H26 to Dec H26]													

H27年度予定事業

- ◎事業用地取得
- ◎取水樋管ゲート設置工事

落合三丁目地区道路整備計画

今後のスケジュールについては、H26年度に道路詳細設計、H27年度に用地取得、H28年度に工事を行う予定である。

